

CS こひつじ科礼拝式次第

2020年11月29日 午前9時30分

2020年度年間テーマ：「神は今も語っておられる。御言葉の恵みに生きよう。」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「いまだかつて、神を見たものはいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」
ヨハネによる福音書1章18節

40、かみよ このひ（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ヨハネによる福音書1章1～5節

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」

」

おはなし 「預言者イエス」

加藤良明先生

ウィルスによる病気が世界中に広まっていて、教会に集まってイエスさまの教えを学ぶことや教会学校の行事を楽しむことが出来ていませんが、みなさんのお家で覚えることの出来る、イエスさまのご降誕を待ち望む待降節（アドベント）を迎えました。

2000年前、イエスさまは私たちの救いのために三つの役割、「預言者・祭司・王」のお働きをもってこの地上にお生まれになりました。

今日はその三つのお働きの中のひとつ、預言者としてのイエスさまについてのお話です。

預言者というのは旧約聖書の時代から、地上に生きる私たちの群れに神さまによって与えられた役割、「預言者・祭司・王」の三つの働きの中の一つです。

それはどのような働きかというと、神さまの言葉を預かり、人々に伝えるというものです。

私たちの教会では牧師先生が神さまの言葉を皆さんに伝えるという預言者の働きをしていますね。

神さまが皆さんに伝えたいと思っていることを、牧師先生を導いて説教（お話）という言葉にしています。

イエスさまは神さまの御言葉を預かり、地上に生きる私たちに伝えるというお働きのために、そして私たちの罪を贖うために人間の赤ちゃんという姿で天から降りてきてくださいました。

それが2000年前の最初のクリスマスでした。始めから神さまと一緒にいたイエスさまが、神さまのもとを離れて私たちの世界に来られた日です。

私たちが生きる今も、天の神さまのもとに昇られたイエスさまのお働きによって、私たちの救いである神さまの御言葉は教会を通じて伝えられています。

そのことを覚えて待降節を過ごしていきましょう。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

朝礼拝においでの際におささげください。

104、金ぎんはわれにない (こどもさんびかをお用ください)